

横浜市少年野球大会（中学生の部）開催要項

2402 横浜野球連盟

1. 大会適用規則

公認野球規則・（公財）全日本軟式野球連盟規定類と取決め事項（競技者必携規則）および大会特別規則を適用する。

2. 打順表の提出と攻守の決定

- [1] 第1試合は、試合開始予定時刻の30分前迄に、第2試合以降は、前の試合の4回終了迄に、監督および主将が登録選手全員を記載した打順表4通（球場到着後直ぐに取りに来る。控え選手も含めて必ず氏名にふりがなを付す）を大会本部に提出する。登録原簿（参加申込書）との照合後に、球審立会いのもと攻守を決定する（監督および主将と球審はユニフォーム着用）。この時チームは試合が出来る状態であること。
- [2] 参加申込書提出後は、選手の変更・追加・背番号の変更等は認められない。
- [3] 試合開始予定時刻になっても、選手が揃っていない場合は、棄権とする。また、同時刻になって試合ができる状態を取れないチームは、原則として棄権とみなす。前の試合が早く終了した時は、次の試合開始予定時刻前でも試合を開始することもある。
- [4] 試合には、ユニフォームを着用した選手9名での参加も認める）。尚、参加申込書には、9名以上25名以内の出場選手を記載すること。
- [5] ベンチは、抽選番号の若いチームを1塁側とする。

3. 大会特別規則

- [1] 試合は7回戦とする。但し、試合開始後1時間30分を過ぎたら、試合の回数に関係なく正式試合となって、その回が最終となり新しいイニングに入らない。同点で終了した時は、抽選により勝敗を決定する。抽選カードは大会本部で用意する。また、変則ダブルヘッダーを実施することもある。
- [2] 試合が7回終了時同点の場合
 - ① 試合開始後1時間30分を過ぎている時は、抽選により勝敗を決定する。
 - ② 試合開始後1時間30分を過ぎている時は、タイブレーク方式を最大2イニング迄実施する事ができる。但し、この方式の時も1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らない。更に同点の時は、抽選により勝敗を決定する。
- [3] タイブレーク方式
継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者に、その前の打者を2塁走者として、無死1・2塁の状態で行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- [4] 得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・5回以降7点差とする。その他のコールドゲームになる理由は、降雨、日没のほか、球場の使用時間を含み、これを適用するのは、4回終了以降とする（正式試合になる回数4回）。
- [5] 特別継続試合
試合が4回以前で中止になった場合（ノーゲーム）でも、4回を過ぎ正式試合になって同点で中止になった場合（タイゲーム）でも、再試合にしないで特別継続試合を行う。試合は後日に、もとの試合の中断になった箇所から、中断時と同一選手で再開するが、規則に定められた選手の交代は認められる。尚、一度退いた選手は出場できない。
- [6] 本大会では、試合前のシートノックは実施しない。
- [7] 抗議のできる者は、監督と当該プレーヤーとする。
- [8] 「一般」と同様に監督に限り、グラウンドに出て指示することができる。
- [9] ベンチに入れる人員は次のとおりとする。
 - ① ユニフォーム着用の、選手25名以内と監督（30番）、コーチ（28番・29番）
 - ② チーム責任者1名、マネージャー1名、スコアラー1名、有資格トレーナー1名
 - ③ その他大会本部が特に認めた者（選手の健康保持のための要員など）
- [10] 投手投球制限は、野球肩・野球肘の障害防止を考慮し、大会中1日100球迄とする（1週間350球）。試合中100球に到達した時は、その打者が打撃を完了する迄投球できる。
- [11] 指名打者ルールを採用する。ただし、「二刀流選手は採用しない」。

4. 用具

- 〔1〕大会使用球は、(公財)全日本軟式野球連盟公認(以下、連盟公認)のM号ボールとし、大会本部で用意する。ロジンバッグも大会本部で用意する。
- 〔2〕金属バット・ハイコンバットは、連盟公認のものを使用すること(JSBBマーク入り)。バットリング・素振り用パイプの使用は禁止なので、グラウンドに持込まないこと。但し、マスコットバットの持込は差し支えない。

5. 装具

- 〔1〕スパイクを除いて、ユニフォーム・アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠のものを使用すること。
- 〔2〕打者・次打者・走者・捕手・ベースコーチは、連盟公認のヘルメットを着用する、SG基準を満たした顎ガードつきヘルメットの使用は認めるが、改造したものは使用出来ない。捕手は連盟公認マスクおよびレガーズ・プロテクター・(ファウルカップ)を着用する。投球練習を受ける選手が、上記装具を着用しない時は、立って受ける(ブルペンも含む)。

6. その他の取決め事項

- 〔1〕ベンチ内に持込めるメガホンは1本迄とし、ベンチ内での携帯電話およびパソコン等の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。
- 〔2〕塁上の走者およびコーチボックスやベンチからの、球種やコースなどを打者に知らせるための行為を禁止する。
- 〔3〕熱中症対策として、守備時間が長い時(約20分)など、給水のため5分程度中断する場合がある。

7. 試合のスピード化に関する事項 (試合時間の目標90分)

- 〔1〕バッテリーは、インターバルを短く、テンポ良く投球すること。
インターバルが長かったり、無用なけん制が、度を過ぎると審判員が判断したら、遅延行為として投手にボークを課することがある。
 - ①サインのやりとりは、簡単に短くする。
 - ②捕手は、投球を受けたら、その場から速やかに投手に返球する。
 - ③投手は、捕手から返球を受けたら、速やかに投手板につき、投球姿勢をとる。
- 〔2〕打者は、投手が投球姿勢をとったら、速やかに打者席で打撃姿勢をとること。尚、打者がサインを見る場合は、打者席内で見ることとし、打者席を外すことを禁ずる。むやみに打者席を外した場合、バッターボックスルールを適用することがある。次打者は、次打者席にて低い姿勢で待機し、投手であってもこれを実行すること。
- 〔3〕攻守交代は、駆け足で行い、第3アウトが成立したら、プレーヤーは素早くベンチを離れて、守備位置に向かうこと。
- 〔4〕各回の先頭打者と、次打者およびベースコーチは、ミーティングに参加しないで、直ちに所定の位置につくこと。
- 〔5〕内野手間の転送球は、一回り以内とし、打者が打撃姿勢をとる前迄に、投手に返球すること。尚、投手への返球は、定位置から行う。
また、打者が打者席にいる時に走者をアウトにした場合は、内野間の転送球を禁止する。
- 〔6〕走者は、ファウルボールの時は素早く帰塁する。また、内野手は、タイムで集まった場合、打合せを素早く済ませ、守備位置には駆け足で戻り、プレイを遅らせてはならない。

8. その他

- 〔1〕球場管理者等に対する言動には充分注意し、マナー向上に努めること。
 - ・グラウンドへの入場時間は、球場管理者許可のもと、大会役員が指示をするので、その指示に従って行動すること。球場管理者の指示は良く守ること。
 - ・タバコの吸い殻も含め、ゴミは各自で持帰ること。
- 〔2〕試合当日の問い合わせは、7時00分以降にチーム代表者一人が連絡をとること。
市営球場管理事務所への直接の問い合わせは厳禁とする。
- 〔3〕グラウンド外では、キャッチボール・バットスイングは絶対にしないこと。
- 〔4〕ファウルボールは、一塁側の物は一塁側ベンチ、三塁側の物は三塁側ベンチ、本塁後方の物は攻撃側で処理する。また、勝利チームは、積極的にグラウンド整備を手伝う。
- 〔5〕駐車場は、駐車台数が少ないので、チームは車に乗わせて来場すること(4台以内)。以上